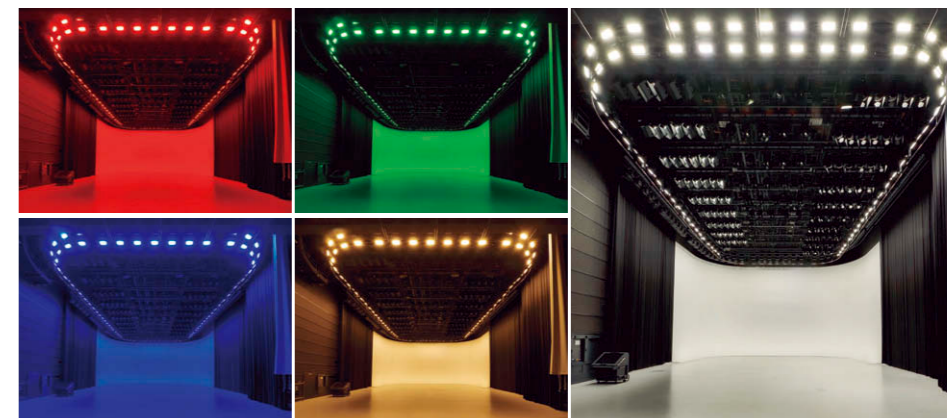


日本テレビ汐留本社の S2 スタジオが、安定・安全の番組運用を目指して設備機器をリニューアル。各種 LED 照明器具と最新の照明制御システムが導入されました。番組セットチェンジにすばやく対応できる使い勝手と、LED 光源ならではの省エネを両立させた LED スタジオ照明を実現しました。

日本初の民間放送テレビ局として 1953 年に開局し、現在 5 大ネットワークのキー局のひとつとなっている日本テレビ。2003 年の汐留移転により新本社となった日本テレビタワーが、2018 年に築 15 年を迎え設備機材を順次リニューアル。S2 スタジオにおいても、照明器具、照明制御システムおよび照明・美術昇降設備が更新されました。



【物件概要】
所在地：東京都港区東新橋一丁目 6 番 1 号
施主：日本テレビ放送網
リニューアル施工：東芝エルティールエンジニアリング㈱
リニューアル完成：2018 年 6 月



水平照明 軽量かつコンパクトな 5 色フルカラー LED 水平ライト④を採用。



調光操作卓 操作性に優れたトラブルに強い調光操作卓⑦を採用。パッチ・カラー制御・エフェクト操作が行える TFT タッチパネル付き。



LED照明器具 左:2kWハロゲン電球器具相当LEDスポットライト①中:1kWハロゲン電球器具相当LEDスポットライト②右上:LEDフラッドライト③右中:フルカラーLEDローアーク水平ライト⑤右下:4ポート仕様DMXノード⑥

RDM 対応 LED 器具を採用し、トラブルに強く、リカバリーに優れたスタジオ照明システムを構築。

日本テレビタワーの S2 スタジオはさまざまな番組の収録や生放送に使用されています。今回、「安全」「効率」「品質」の 3 つのテーマでリニューアルが行われ、照明器具の LED 化をはじめシステム全体を見直し、最新の設備機器が導入されました。省エネはもちろんのこと、作業の効率化と安全確保、トラブル時の瞬時対応など、システムの冗長性を確保した、新しいスタジオ照明システムを構築しています。調光操

作卓は、デュアルランニング CPU、バックアップシーン再生機能、EMG 点灯機能などにより、高いトラブル対応力を実現しています。LED 照明器具との通信は、将来を見据えた双方向方式 RDM が採用され、器具単位での情報取得や DMX アドレスのリモート設定を可能にするとともに、RDM 対応器具の接続を検知し、操作卓のモニターに自動表示するなど、仕込み時間を大幅に削減します。

照明パトン 写真右から A、B、C の 3 列に各 11 掛の照明パトンを設定。LED スポットライト①②最大 90 台と LED フラッドライト③最大 60 台の設置が可能。



美術パトン用リモート 調光用ワイヤレス操作器操作卓

主な掲載器具一覧					
設置場所	器具名 (品名)	形名	台数	備考	
S2 スタジオ	①LEDスポットライト(8型)	新型開発品(ハロゲン2kW相当)	60	消費電力: 241W	
	②LEDスポットライト(6型)	AL-LED-FSJ-L(ハロゲン1kW相当)	30	消費電力: 140W	
	③LEDフラッドライト	AL-LED-BRH-L(ハロゲン1kW相当)	60	消費電力: 162W	
	④LEDアッパー水平ライト(5色、下段斜光/パネル付)	—	136	消費電力: 140W	
	⑤LEDローアーク水平ライト(5色、φ34クランプ付)	—	32	消費電力: 140W	
	⑥DMXノード	AL-DMXNODE-14B	72	イーサネット⇄DMX変換器	
副調整室	⑦日本テレビ様仕様調光操作卓	—	1式		
調光盤室	インテリジェント形調光器盤	PLUG-IN DIMSTARⅢ	1式		

※イーサネットは富士ゼロックス株式会社の登録商標です。